

## エディンバラの街の魅力と道徳哲学思想

相澤 俊明

エディンバラは、人口は50万人弱であり、スコットランドでは2番目、イギリスでは7番目に人口の多い街です。埼玉県では川口市とほぼ同じくらいです。町はユネスコ世界遺産登録され、エディンバラ城をはじめ、数多くの旧跡を持ち、一年を通じて世界から観光客が集まるため、国際色豊かな街となっています。8月にはエディンバラフェスティバルと呼ばれる芸術文化の祭典が催され、世界中から大道芸人、観光客が集まり、街は活気にあふれます。その中でも特にミリタリータウー<sup>1</sup>は中心イベントであり、連日大賑わいとなります。街は灰色の家が並び、重厚感溢れ、他のイギリスの街とは異なった魅力や文化を持ちます。中でもイングランドとの戦いの中で、破壊と修繕を繰り返してきたエディンバラ城からは、スコットランド独立の歴史の奥深さを感じることができます。スコットランドの首都でありながら、過度に都市化が進んでいるわけではなく、街全体がゆったりとした時間で動いている印象を受けます。一方で、過去には暗い歴史もあり、今日の華やかな観光メインストリートがかつては貧民街であったり、カフェが並ぶ通りがかつて処刑場であったりなど、少し歴史を調べてみると思わぬ発見があり、退屈することがありません。

エディンバラ大学は1582年に設立され、大学の建物は学問分野ごとに広く分布しております。エディンバラ大学は18世紀から19世紀の初めにかけては啓蒙思想発達の中心的な場でありました。アダム・スミス<sup>2</sup>、デイヴィッド・ヒューム<sup>3</sup>の道徳哲学が生まれた地でもあります。経済学はイギリス生まれの学問ですが社会科学の中でも国際的な標準化が進んでいるため、イギリスで現在行われている近代経済学の教育内容は日本やアメリカとそれほど大きな差は見られません。しかし、根っこの部分で道徳哲学という視点を今でも大切にしている点は日米の経済学教育と異なる点だと思われます。

---

<sup>1</sup> 軍楽隊によるバグパイプの演奏や伝統的なダンスが披露される。

<sup>2</sup> 経済学の父とされる哲学者、経済学者(1723-90)。代表著書として『道徳感情論』(1759) 『国富論』(1776)が知られる。エディンバラの大聖堂前に立像があり、キャノンゲート教会に墓がある。

<sup>3</sup> スコットランドを代表する啓蒙思想家(1711-76)代表著作に『人間本性論』(1739-40)がある。ヒュームの思想はトマス・ジェファソンやベンジャミン・フランクリンなどアメリカ建国の父に影響を与えたとされている。



エディンバラの街



講義が行われる Old College



観光ストリートであるロイヤルマイル



エディンバラの街並み

平成 25 年度 学位取得コース奨学生  
留学先：エディンバラ大学 経済学部修士課程